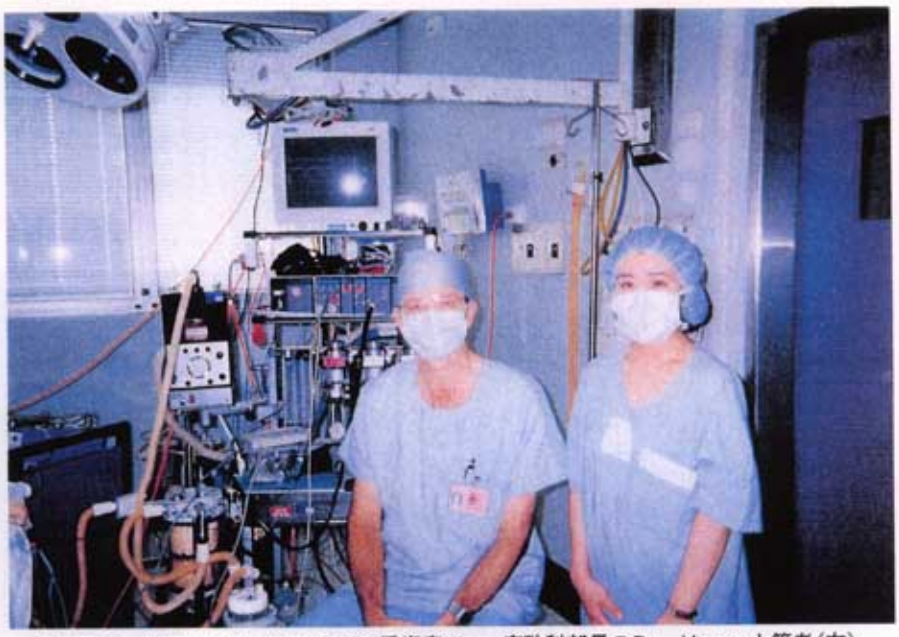
MEETING REPORT

第11回世界麻酔学会議に出席して

附属病院 手術部
舘岡　亜希子



Princess Alexandra Hospitalの手術室で── 麻酔科部長のDr. Horanと筆者(右)

去る4月14日から20日にオーストラリアのシドニーにて開催された第11回世界麻酔学会議に出席してまいりましたのでご報告いたします。

私は麻酔器の人工呼吸器についてポスターにて発表いたしましたが、世界麻酔学会議は4年に一度開催されるいわば麻酔の万博といった感じで、内容も最新の知見から非常に基本的なことまでバラエティーに富んでいます。医科研の先生方が出席される国際学会といいますと、専門分化された最新のトピックスが中心のことが多いかと思いますが、NO（一酸化窒素）や低流量麻酔などに混じって、発展途上国における近代的な麻酔の進行プログラムに関する報告や、女性麻酔科医の地位と役割の現状と将来の課題に関するいわゆるgenderのセッションなどもあったのが印象的でした。

学会に出席後ブリスベンに足を伸ばし、Royal Children's HospitalとPrincess Alexandra Hospitalを手術室を中心に見学させていただきました。Royal Children's Hospitalは、かつて国内でまだ肝移植が行われていなかった頃、何人もの日本の子供たちがお世話になった病院です。ここのドクターは皆白衣を着用せず、ICUでさえ、普通のシャツに聴診器をポケットにつっこんだだけの格好で仕事をしていました。Princess Alexandra Hospitalは手術件数がとても多く、さらにいわゆるday surgeryのユニットが別にあるそうです。手術室のマンパワーはうらやましい限りで、ナースの数も多く、患者さんの担送専門の係もいましたし、麻酔科医の数も常勤、非常勤、研修医あわせて日本の1.5から2倍くらいいるといった感じです。麻酔に関しては、私たちが行っている方法や使用している薬とあまり変わらないという印象を受けました。

最後になりましたが、国際交流基金より助成をいただきましてこのような機会を得られましたことに感謝いたします。

編集後記

北・新編集長のもと、2号目の医科研NOWの発行となりました。前号は斬新な色使いで医科研NOWの歴史に新たなる1ページを付け加えましたが、本号はいかがでしたでしょうか。一見、今までと変わっていないように見えて、大きく変わった点は、配布先リストの大幅な見直しをしたことです。したがって、はじめて、医科研NOWを手に取られた方も多いかと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。

最後に、編集の都合で記事の掲載が大幅に遅れたにもかかわらず、快く待って下さった、渋谷先生はじめ細胞遺伝の方々、エイズ診療部の野島先生、遺伝子制御の岡崎先生、放射線科および図書掛の方々に感謝いたします。㊫

© 医科研NOW編集室／〒108 東京都港区白金台4－6－1 東京大学医科学研究所 ☎03－5449－5298
委員長：北　潔　委員：渡邊俊樹・菅野純夫・佐藤典治・野島美久・井桁幹隆・星　昭一・藏野妙子・加藤洋一